

中国の記事から（畜産）

2006年1月31日号

目次

◎四川省成都市で29歳女性が鳥インフルに感染

【経済日報 2006年01月24日】

◎肉まん老舗の狗不理集団、合併会社に商標使用停止を要求

【市場報(人民日報主筆) 2006年01月27日】

◎四川省成都市で29歳女性が鳥インフルに感染

【経済日報 2006年01月24日】

中国衛生部は、23日、四川省成都市で高病原性鳥インフルエンザ(H5N1型)の人への感染が確認されたと発表した。

感染したのは、同市農産物市場で食品店を営む29歳の女性。1月12日に発熱、肺炎などの症状が発生し発病した。現在は成都市の病院で治療を受けているが容体は重い。中国疾病予防センターが22日、検査によってH5N1型ウイルスに感染していると確認した。

◎肉まん老舗の狗不理集団、合併会社に商標使用停止を要求

【市場報(人民日報主筆) 2006年01月27日】

150年の歴史を誇る肉まんの老舗・狗不理集団は、香港企業との合併会社・天津狗不理包子速凍食品有限公司に対して「狗不理」商標の使用、同商標を使用した製品の販売を停止するよう求めた。

天津狗不理包子速凍食品有限公司は、元の国有企業である天津狗不理包子飲食(集団)公司与香港浩平発展有限公司がそれぞれ28%、72%を出資し合併設立したもの。天津狗不理包子飲食(集団)公司も合併会社と「狗不理」商標使用契約を取り交わした。狗不理集団によると、管理体制が混乱しているほか、違法な株式譲渡などの行為が存在していることから商標使用権停止を求めたもの。同集団は、すでに商標使用権を回収するため、裁判所に提訴している。

本情報は、株式会社日本能率協会総合研究所により
翻訳された中国の新聞記事をもとに、同社の許可を得て
独立行政法人農畜産業振興機構が整理したものです。